

# 農大

令和3年3月号



鳥取県立 農業大学校

〒682-0402 倉吉市関金町大鳥居1238

TEL 0858-45-2411

FAX 0858-45-2412

E-mail : [nogyodaigaku@pref.tottori.lg.jp](mailto:nogyodaigaku@pref.tottori.lg.jp)

HP : <https://www.pref.tottori.lg.jp/noudai/>



## 卒業生へメッセージ

校長 地原 聡子  
ち はら さとこ

「やりとげた」という経験をしておくことは、次のステップに進むために必要なことだと思います。

「やりとげた」という達成感が、新たな事へ挑戦する「勇気」や「覚悟」を生むように思っています。

二年間の総仕上げである卒論発表会で、みんなの引き締まった顔は、「やりとげた」達成感に満ちており、それは、次のステップへ進む準備ができたことを感じさせるものでした。

本校を卒業したことに誇りを持って、それぞれの道を歩んでいただきたい。学んできたこと、「やりとげた」自分を信じ、挑戦し続けて欲しいと思います。



# 卒業論文発表会開催!!

1月8日、卒業論文発表会を開催しました。本校では、学生が自ら設定した課題の解決を図る「プロジェクト学習」を教育の柱にすえています。そのプロジェクト学習の成果を、養成課程の2年生21名がそれぞれ卒業論文としてまとめ、発表を行いました。

校内審査で金賞に選ばれた久保田光祐くん、銀賞の難波大輔くんは、鳥取農大の代表として、1月19日に開催された中国四国ブロック農業大学校等プロジェクト発表会に出場しました。今年度の中国四国ブロックのプロジェクト発表会は新型コロナウイルス感染症対策のため、リモート方式で開催され、事前に録画した発表動画の視聴とオンラインでのリアルタイムの質疑により審査が行われました。惜しくも全国大会出場とはなりませんでした。二人とも審査員からの質問に堂々と回答していました。



**金賞**

**久保田 光祐** 花きコース

**シクラメンの摘葉処理が鉢花品質および労力削減に及ぼす影響**

多くの方の助けにより、プロジェクトをまとめ、自信を持って発表を行うことができました。

今後ともこのプロジェクト学習法を活用しながら、自分磨きに努めたいと思います。

ご協力して下さった皆様、本当にありがとうございました。



**銀賞**

**難波 大輔** 作物コース

**水稲乾田直播栽培において耕深と除草剤回数が生育収量等に及ぼす影響**

中国四国大会では残念ながら入賞することができませんでしたが、先生や作物コースの学生の協力のもと、ここまでの結果が出せたと思うので皆さんにとっても感謝しています。



**銅賞**

**桐原 拓也** 花きコース

**エディブルフラワーの営利栽培に向けた栽培・商品性の検討**

自分が入賞できるとは全く思ってもいなかったもので、とても嬉しかったです。

今回入賞できたのは、皆さんの支えのおかげであり、とても感謝しています。卒業後も引き続きエディブルフラワーの知見を広め、栽培に向かって邁進したいと思います。

## 校内意見発表会開催!



11月12日、校内意見発表会を開催しました。将来の夢や農業に対する想い、また、将来の就農に向けての決意などについて、自らの学生生活を通じ日頃考えていることや想いを、1年生20名が発表しました。

野菜コースの塩竹啓人くんは、学校代表として、1月19日にリモート方式で開催した中国ブロック農業大学校等意見発表会でも堂々と発表を行いました。

### 校内意見発表会の受賞者

賞	コース	氏名	題名
最優秀賞	野菜コース	塩竹 啓人	「可能性」
優秀賞	野菜コース	初田 優真	「日光集落に命を吹き込む 新しい農業の形」
優秀賞	果樹コース	泉 紘人	「夢は地元で梨農家になることだ」

# 県議会質問で取り上げられました

本校では平成30年度からグローバルGAPの知識の習得と実践に取り組んでおり、平成31年1月に日本梨で鳥取県内では初のグローバルGAP認証を取得し、令和3年1月には白ネギで認証を取得しました。そのような中、鳥取県議会の11月定例会本会議で本校のGAPの取組等について取り上げられましたのでご紹介します。

**問** 5コースすべてのGAP認証取得について、本県でGAPを推進する上で、どんな効果を期待するのか。県内GAP研修拠点として、どう展開をするのか。

**答** 様々な農業生産ジャンルへの挑戦を一つの研修と考へて展開している。自己研鑽、目標を持ったチャレンジとして非常に有効だと思う。非常に厳しい審査基準があるが、整理整頓などの能率的な生産管理について基本を学ぶ。そのツールとしてGAPがあった。

**問** 農大グローバルGAP認証商品のPRについてどのような取組が効果的と考へるのか。海外販売実習が検討されているが、どんな期待をし、波及効果についてどう考へるのか。

**答** GAP食材を使ったおもてなしコンテストに農大が参加し、アピールの経験も培っている。また、台湾の高級スーパーマーケット「裕毛屋」で農大の「新甘泉」を扱い、販売PRに学生も関わっていくという準備をしているところ。認証商品のPR、海外の販売実習などにもこのグローバルGAPが活用される。

**問** 農大各コースでのスマート農業の現状と課題、これについてどういうふうにお考へなのか。農大でのGAP、スマート農業の人材育成についてどう評価するのか。今後の取組とあわせて所見を伺う。

**答** JAグループからスマート農業機器の提供を受けて、ロボット草刈機の他、牛の分娩時期を知らせてくれるモバイル牛温恵を使った試験、ソーラー灌水システムのナスでの試験などを行っている。これからはスマート農業が当たり前になり、農業のスタイルも大規模化や、収益性や安全性の向上につながってくるかもしれない。このような意味で、研修の初期段階、農業大学校というタイミングで提供できる意義は大きい。これからも積極的にスマート農業、GAPを未来の農業者の人材育成に役立てていきたい。

問：議員からの質問 答：知事の答弁



## 修農祭



今年度の修農祭は、コロナ禍の真ただ中にあるため、従来の外来者をお呼びしての農産物販売は開催が難しく、それに代わり、新型コロナウイルス対策を徹底し、11月19日（木）から20日（金）にかけての2日間、学生会主催の内輪会として開催をいたしました。

企画から運営まで全て学生が行い、初日は、各コースが露店を開き、焼きネギ、アップルパイ、カステラ、シフォンケーキ、ハンバーガー、豚汁、サイコロステーキなどを販売しました。また、同時にレクリエーションとして、カラオケ大会やピンゴ大会も開催しました。さらにその夜には、花火大会で交流を深めました。

翌日は、鳥取県立農業大学校大運動会を開催し、大食い競争、紙飛行機大会、玉入れ、じゃんけん大会、クイズ大会、障害物競走、ドッジボールなどの12種目を学生と職員が一緒になって汗を流しました。

今年は、新型コロナウイルスの影響で、数々の学校行事や研修等が中止となり、学生たちはどこにも行くことなく寮中心の自粛生活を余儀なくされて、かなりストレスが溜まっていたようですが、今回の修農祭でストレス発散ができたようです。開催期間中は、農大全体が活気に溢れ、「輝かしい笑顔」で満たされることとなりました。

新型コロナウイルスの状況にもよりますが、令和3年度の修農祭では、外来者をお招きした農産物販売も計画をしています。その際には、本紙でもご連絡させていただきます。



## 農大での学びを振り返って

果樹  
コース

この2年間という期間は、あっという間だったように思います。果樹栽培に関することはもちろん、基本的な農業の知識など、たくさんのことを学びました。農業高校出身でない私でも、楽しく学ぶことができ、貴重な経験が出来たと思います。

農大で育てている様々な果樹、そして、過去の先輩方が残してくださった数々の伝統。これらを、後輩たちへしっかり引き継いでゆかなくてはと、強く責任を感じることもありました。大変なこともありましたが、今となっては全てが良い思い出です。

1年生の皆さん。2年生になると楽しいことより大変なことがたくさん待ち受けています。しかし、それをプレッシャーと感じるのではなく、自分を成長させる機会なのだと、ポジティブに捉えて生活してみてください。最後に、先生をはじめお世話になった皆様、本当にありがとうございました。 角田 光

野菜  
コース

2年間お世話になりました。入学当初、先輩の姿を見てこんなふうになれるのだろうかかと心配でしたが、先生方、先輩、同学年に助けられ、日々こなしていくうちに当たり前になるようになっていきました。どんなことも、続けていけばできるようになっていくものです。続けるためには、記録に残すことが大切だと思いました。現1年生は、今の活動を次の1年生に伝えることができるように、記録をしっかり残してください。もちろん勉強も大切ですが、助け合えるように、楽しんで日々を過ごしてください。2年間ありがとうございました。 山本 隼平

花き  
コース

農大では、農業の基礎知識や花の栽培技術、そして仲間とともに同じ目標を持ち、それを成し遂げることで得られる達成感や、感動を学びました。2年間たくさんのお話を教えていただき、お世話になった職員の皆さん、本当にありがとうございました。僕にとって農大での生活は、新しい発見の連続であり、寮や学校で2年生の皆と過ごした日々は、自分自身を大きく変え、新しいことにチャレンジできる人間へと成長させてくれました。今の自分があるのは、2年生の皆さんのおかげであり、今まででもこれからもかけがえのない思い出です。最後の学生生活を農大の皆さんと過ごせて、本当に良かったです。2年間ありがとうございました。

1年生の皆さんへ、1年間いろいろなことがあったと思いますが、皆さんはこれから2年生となり、僕たちがそうであったように、後輩に指導するという立場になります。1年間で学んだ多くの知識を次の1年生に伝え、共に学び、農大生活を存分に楽しんでください。本当にありがとうございました。 小谷 康平

## 作物 コース



私たちの代の作物コースは全員が農業高校出身ということで皆それぞれある程度の知識がありましたが、まだまだ知らないことが多く、2年間で様々なことを教えて頂きました。この2年間は私たち学生にとって農業経営がどういったものなのか知る機会になったと思います。このまま農業を志そうとする人、挫折し他の職業に就こうとする人、どちらになってもこの2年間は良い経験、思い出になったと思います。社会に出て自分がどれだけ通用するのかわからないですが精一杯頑張っていこうと思います。最後になりますが先生方、後輩達、食堂の方々、掃除のおばちゃん方、2年間ありがとうございました。

難波 大輔

## 畜産 コース



2年間お世話になりました。

畜産を多少知っている人から、全く知らない素人が入り交じる中、先生方や先輩方には基礎からじっくりと教えて頂きました。畜産を全く知らない素人だったのですが、そんな自分でもしっかりと牛に世話ができるようになりました。ありがとうございます。

また、自分の世代の畜産コースは、農業大学校でも一番波乱の起きたコースでした。様々な事に対立もしたりしましたが、それでも私たちの仲は、それなりに良かったと思っています。そんな仲間たちと農大で過ごしたことは、私達の中に思い出としていつまでも残るでしょう。

この学校で学んだこと、たたき込まれたこと、それらを社会に出てからも生かせるように、これからも精進していきます。本当にありがとうございました。

福田 桐也

## 養成課程学生の卒業後の進路 (令和3年2月20日現在)

雇用就農**38.0%**、親元就農**9.5%**、進学**0%**、農業関係就職**28.5%**、その他**23.8%**

## 研修課



スキルアップ研修を受講すると、卒業後に栽培予定の作物を先生のレクチャーを受けながら学ぶ事ができます。

鳥取特有の気候に合わせた季節毎の作業が1年を通じて可能なため、就農後のイメージも湧きやすくなりました。

また、栽培予定の作物だけでなくそれ以外の作物も含めて広く学ぶことが出来るため、多面的に農業を考える事ができるのはいいところだな、と実感しています。

就農準備では、栽培の技術面だけでなく農業経営、農地の確保、関係者への紹介(人脈作り)等幅広く支援いただけるのも特徴のひとつです。

各試験場への視察、先輩農家の見学も企画いただけるので農大を卒業して成功されている姿を見ることで勇気付けられますし、近い年代の方との繋がりができるのは嬉しかったです。

大河内 真生

# 卒業生の近況報告

## 東地 海也さん

北栄町・平成30年度  
果樹コース卒業



卒業後、先進農家実践研修で2年間研修を行い、今年の春、就農予定です。父と叔父が新規就農、僕の弟も親元就農し、非農家の家系からここ10年もしないうちに、皆農家になりました。現在、父と叔父は二十世紀80aと新甘泉50aを栽培しており、自分は新甘泉のジョイント栽培を主に二十世紀も栽培する予定です。効率良く収入を上げるため、網掛け施設で無袋のジョイント栽培を導入し、省力化を行い、規模拡大・増収を考えています。

農大在学中から研修期間中を通じて、人との繋がりは本当に重要だと思いました。困った時だけでなく、栽培管理の考え方は人それぞれの事もあるので、人の工夫を吸収していくことも大事だと感じました。鳥取県を代表する梨農家を目指して頑張ります。みなさんも目標に向かって頑張ってください。

## 蓮佛 司さん

鳥取市・平成31年度  
花きコース卒業

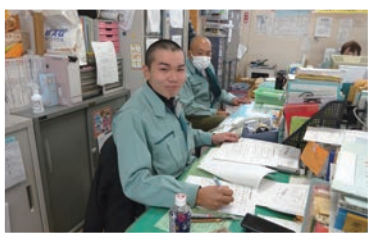
私は農大を卒業後、県内の卸売植物農園である竹本園に就職しました。竹本園は、圃場面積が約31,000m<sup>2</sup>で、山野草、樹木苗、海岸植物などを育て販売卸を行っています。勤めてから、圃場の見回りや水やり、苗の植え付け、商品の出荷などの多くの作業を行いました。作業では失敗もしますが、多種多様な商品の名前を覚えることにとても苦労していますが、前を向いて、日々の仕事に専念しています。

私は、これまでの仕事を通して、人とのコミュニケーションが重要だと再認識しています。相手と話した意見を参考にすることや相談することはとても大事で、日常生活でも必要なことです。私はこれからもコミュニケーションを大事にして、この好きな仕事を頑張ります。皆さんも夢に向かって頑張ってください。



## 中嶋 健瑛さん

鳥取市・平成30年度  
作物コース卒業



農大を卒業してJA鳥取いなばに就職し2年目になります。高草支店で営農担当をしており、農大で勉強したことが生かせる職場だと思います。在学中にはフォークリフトなどの資格を取っていましたが、取っていてよかったと思いました。

現在、先輩や農家の方とともに、日々楽しく仕事をしています。JA職員や農業法人等には農大OBも多くいらっしゃるので、今後も繋がりを大切にしたいと思います。

農大の生活は楽しかったですが、結構厳しい指導も受けました。現在も同期とは連絡を取り合っています。在学も学生時代の仲間は大事にしてほしいと思います。

## 西村 尚樹さん

倉吉市・平成31年度  
畜産コース卒業



私は農業大学校卒業後、鳥取県農業共済組合に就職しました。現在は農機具の共済を担当しています。農機具共済とは、農作業中に農機具が事故にあった場合に農機具に対して保険金をお支払いするという保険です。

入社するまでは共済組合についてあまり知りませんでした。しかし、農機具共済の加入推進や事故があった時の損害評価を通じて、農家の皆様の支えになっていることを実感しました。まだ1年目なので学ばることが多いですが、上司や先輩に教わりながら日々頑張っています。

農大で様々な農機具を扱い、畜産関係だけではなく農業全般のことについて学んだので、その知識や経験が農家の方と話す際は活かされていると実感します。

事故があった際は、私にまかせて助かったと農家の方から言って頂けるよう努めていきます。

## 松本 日向さん

鳥取市・平成31年度  
野菜コース卒業

季節によって様々な物を栽培する、多品目栽培をしている農園です。多品目ということもあり、様々な作物の栽培方法を知ることができるので、とても充実した日々を送ることができています。また先輩方は、分からないことや出来ない事があると手を貸して下さったり、解決方法を一緒に考えてくださる方々ばかりなので、人間的にも成長できているなと感じています。

在校生の方々も、卒業後の就職先で充実した日々が送られるよう、積み重ねを大切に学生生活を楽しんで送ってください。

